

及びません、何となれば前婚の解消後既に十二ヶ月を経過致して居りますからで御座ります、注意迄に一寸書き加へますが女が前婚の解消又は取消の前より懐胎致して居りました場合には其分娩の日より此制限を適用致しません、蓋し其時より血統の混亂を來たす憂なきが故であります。

# 氣管支加答兒の話

S 生

氣管支加答兒は、随分多い病氣で、從て其種類も種々あります、茲には主として、急性氣管支加答兒と、慢性氣管支加答兒とに就き、御話致します。

## 急性氣管支加答兒

原因は多くは感冒より起るので、冷たい濕りば

い空氣を吸つた爲めに、それが氣管の粘膜を刺激し、粘膜の表面は赤くなり、膨起して其粘液分泌が増加します、即ち其部に加答兒を起すに因るので、同時に咽喉加答兒を併發することが多い、普通輕度の場合には、加答兒は大低氣管と氣管支にのみ止まり、毛細氣管支には波及致しません時に氣管支加答兒は、煤煙塵埃、有害の瓦斯などを吸入したる爲め、起ることがあります、例令は、織物工場製藥工場の職人、石炭運搬夫などは、屢これに罹ります、其他急性傳染病、例令は麻疹百日咳「インフレンザ」「チフテリア」天然痘の時に起り、又重き病氣で、身體全体が衰弱した時にも起ることがあります、急性氣管支加答兒は、大低春又は秋の如き氣候の變はり易い時に多く發し、貧血の人は無論のと、強壯の人をも襲ふことがあ

りますが、然し何れかと云へば、小兒や老人に來ることか多いのです、偕て其の

症候として起るのは、先づ第一に咳が出る事です、咳は多い事も少ない事もあり、其場合により一定しません、若し氣管が、強い加答兒に罹つた時には、首又は胸骨の上部の邊に、傷を受け様な感じがして、咳をする毎に痛が加はります、其他咳と共に痰が出ます尤も略痰の性質は一樣でなく、時により粘々する痰が、少し出ることもあり、時によりては、あまり粘力なき痰、乃至は粘りつ濃い膿様な痰が出ることもあり、氣管支加答兒が劇しき時か、又は飲酒家が之に罹つた場合には、痰の中に血が混じて出ることすらあります、又病氣が劇しくなれば、呼吸が困難となるとが、あります、全體症狀は、輕度の時には左程の

事はなく、重き場合には、氣分が悪くなり、食物が減退し、可なりの發熱もあり、頭痛がします、熱は殊に夕刻になれば昇ります、殊に小兒には三十九度以上になることは少なくはありません、咳が劇しければ咳をする度に頭痛が甚しくなります。

以上は、急性氣管支加答兒に就て、一般に述べたのですが、元來輕度症の時には熱はあることもあり、又は全く無き事もある位ですが、痰は澤山に出ることがあります、大低氣分が少し變なると、咳嗽と略痰とがあるので、氣が付き、此時に適宜の手當をすれば、數日……長くとも一週間で癒ります、又病氣を輕んじて手當を怠り、又は推して寒い所へ出たり、兎に角用心をしなければ、久しきに至つても癒らず、遂に慢性となるの

であります、又重症の時には、前述の症候が、すべて激しく來るので、即ち高度の熱が四五日以上も續き粘力の強い膿の様な痰が出で、又は粘り氣の少ない痰が出ます、加答兒が氣管支にのみ止まらず、毛細氣管支に及べば所謂毛細氣管支加答兒で、呼吸困難を覺え、呼吸は早くなり、咳が劇しくなりそれと共に痰も出て來ます、殊に注意を要するは小兒の毛細氣管支加答兒であります、小兒にては、氣管支加答兒は、動もすれば、毛細氣管支加答兒になり易く、殊に虛弱貧血の小兒、又は初めて齒の生へる頃の小兒に於て、最も此傾向があるので、これに罹つた小兒は、咳が出る事と殊に泣く時にそれが劇しくなるので判ります、痰は小さな小供には出ません、これは痰が咳と共に出で來るのですが、それを吐き出ださず、直ちに吞み込

んで終ふからです、殊に此際著るしいのは、呼吸が早くなる事で、重症の時には呼吸が不規則になり、呼吸困難の證として、呼吸の度に鼻翼が動さなれば、吸氣の時、胸の下側部が凹陷します、其上尚ほ危篤となれば、患兒は不安の狀を呈し、顔面は血色を失つて眞青になり、遂に氣絶します、此の時は單に毛細氣管支加答兒のみでなく、既に肺炎が加はつて來た證據です、此間患兒は、常に熱度高く、四十度又は其の以上にも達することがあります、で、此病氣は、少なくとも二三週間又は其以上も経過せねば癒はりませんが、特に營養不良の子供では、一は衰弱により、一は呼吸が不規則となる事により、悲しむべき最後を遂ぐるに至ります、殊に麻疹百日咳「ジフテリア」等に併發す

る氣管支加答兒は、動もすれば毛細氣管支に波及し、遂に肺炎を起し易いものでありますから、用心にも用心を加へなければなりません。

豫防 一言以て之を蔽へば、上述の原因を遠ざける事が第一であります、氣管支加答兒に罹り易い者は、成人にせよ小兒にせよ、あまり外界の温度の變化に影響を受けぬ様、皮膚を強固にすることが肝要です、不幸にも此病氣に罹つた時は其療法 として、輕度の時には、單に食物に注意し、且身体を冷却せぬ様にし、若し熱があれば、褥に就かねばなりません、急性氣管支加答兒には發汗法が最も妙なので、白湯、玉子湯等の如き飲物を多量に取り、盛に發汗を促がすのです、若し痰が粘り強く、吐き出すに困難の時には、多量の飲料を取れば効が益多い譯です、其他亦吸入法

を行ふても宜しい、これはあまり効力も有りませんが、若し空咳で痰が出惡くければ、吸入器を用ゐて水蒸氣又は一乃至二%の食鹽溶液を用ゐ吸入するのもよい、若し甚だしく胸が痛み、又は胸が苦しければ、胸に湿布を當て温むるのも効が有ります、もし又痰が非常に激しく、胸苦しくて安眠が出来なければ、醫者に就き鎮咳劑を請ひ、もし又略痰が困難なれば、祛痰劑を用ゐねばなりません、又温湯に入り身体を温たむる事も時に効力があります、其際に湯醒をせぬ様注意すべきは勿論です。

小兒の毛細氣管支加答兒にては、重態の時には、温湯に浴せしめ体を温むるも中々有効で、痰の吐出を容易にし、時には肺炎となるを防ぐの効があるとの事です、又木綿布を温湯に浸たし、よく絞

ばり、それを患兒の胸に纏ひ、其上を乾いた毛布などで被ひ、温むるも効があります、其時は小兒の兩手は布で纏まぬ方が便利でよい、勿論此時布が乾けば時々更に濕さねばなりません、其他虚弱の小兒には、滋養に富める消化し易い食物を與へることが必要で、場合によりては、少量の葡萄酒を與へてもよいのです、

若し老人が此病氣に罹つた時は、先づ滋養物を與へて其氣力を付けることが第一で、咳に力がなく痰が出悪くければ、祛痰劑を與へるの必要があります、又湯に入りて体を温めるのも効があります、が、あまり熱き湯に入るとは避けねばなりません

原因

慢性氣管支加苔兒  
慢性氣管支加苔兒は、不知不識の間に起

ることもあり、又稀には、急性氣管支加苔兒が慢性になる事があります、急性氣管支加苔兒を起すと同様の原因が、繰返へし繰返へし度々氣管支に働く時にも、これを起しますが、殊に絶えず塵埃などを吸入することにより、起ることも少なくはない從て此病は、粉類を取扱ふ人、石工織物職工、石炭運搬夫等に多く見る所です、元來慢性氣管支加苔兒は、成人や老人に多いのですが、小兒には百日咳麻疹などの後に起ることがあります、若し此の如き小供に手當を施さず放擲し置けば、成人して迄も病氣が癒らず、害をなす事すらありとの話です。

症候

慢性氣管支加苔兒と同じく、咯痰、咳嗽、呼吸困難であります、咳は通常日中よりも、朝、晩又は夜間に劇しくなります。多くの場合に

は、空咳で少許の粘力の強い痰が出るのみで、咳をする時に随分苦しい、これは乾急性氣管支加苔兒と稱し、中々頑固で、一年以上も癒らぬ事があり、又それとは異り、薄くて粘力の少ない痰が、而も随分多量に出ることもあり、其時は咳をするに骨は折れませんが、これを氣管支漏と申します、又咳が三十分乃至一時間位出でては止み、止みては出で、即ち發作性に起り、泡沫狀の流動し易い痰が出で、殊に發作の間には呼吸をするのが苦しい、これは濕性喘息と申します、此等慢性氣管支加苔兒は、随分癒り難く、癒つたと思ひ油斷すると、又再發するの恐があります、患者は暖かい時候には割合に氣分も宜しいが、秋より冬に掛けて、病勢が加はることが通常です、若し此病が半年も一年も續く時は、其結果、肺氣腫肺

結核心臟病の如き、恐るべき疾病を醸することがあります。

療法 はなるべく、氣管に刺戟の働かぬ様用心するが第一であります、若し出來得べくんば、あまり氣候の變化の急劇でなき、空氣が清潔なる田舎、又は温泉場に行き、靜養するが最も良い、然し、それが出來なければ、家に在りても、空氣の惡しき時は、戸外に出で、寒氣に觸れ、又は塵埃等を吸入せぬ様注意し、又空氣が穢なく、塵埃の多き處、例令は、緣日、興行物、寄席、芝居などへは行かぬがよい、食物は、なるべく消化し易いものを選び、又便通をよくすることが必要で、これが爲めには、毎朝空腹の時、一杯の水を飲み、少し運動するか、又は果物を食すれば良い、それにて便通がなければ、下劑を用ゐねばなりません

ん、多くの人の経験によれば、便秘すれば病氣が甚くなるこの事です、又水蒸氣食鹽溶液の蒸氣吸入の外、咯痰が多き時は「テレビン」油を用ゐて吸入法を行います、其他の事は、すべて急性氣管支炎加苔兒療法の條下を參照して行へばよいのです。



### 子供のおもちゃ (その二)

#### (一) 普通の玩具

今度は、通例玩具店に賣て居るもの、獨樂とか鐵砲とか人形とか飯事の道具とか、所謂普通一般におもちゃと言はれて居る物に付て考へて見たいと思ひます。

此類の玩具は、人間の考へと手間で出来たもので

